

琉球大学学術リポジトリ

研究会誌創刊にあたって

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国府田, 佳弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017209

研究会誌創刊にあたって

会長 國府田 佳 弘

本会が昭和57年に発足してから4年たちましてやっと念願の研究会誌創刊号を会員の皆様にお届けできるはこびとなりました。会員の皆様の御協力と編集委員、スタッフの皆様の御協力に先ずお礼申し上げ、本会の記念すべき第一歩として皆様と共に心から祝いたいと存じます。

ふり返って見ますと、本会が設立された動機は熱帯・亜熱帯資源のプロジェクト研究の中から、今後資源利用の研究を続けて行くための母体となるものが必要ではないかということでありましたが、その後、翌年には思いがけず国際シンポジウムを主催することになり本会の存在を中央の各界の方々にも知っていただくことになりました。これには、農業機械学会のお勧め、国際協力事業団や沖縄県の御協力、農芸化学会役員の方々の御支援など会員外のお力に負うところも大きかったと思います。誕生間もない研究会にこのような御支援を得ることができたのは誠に幸運でありましたが、これは単に幸運ということではなく、会員の皆様の日頃の活動によって外部の方々の信用を得ていたことと、研究会の対象が時代の要求に合っていたことが大いにあずかって力があつたことと思います。本会はその後も関連分野の著名な方々の講演会を開き会員の視野を広げると共に、一般の方々にも参加していただき社会の啓蒙にも役立っております。これに伴ない会員の数も増え、昨年度の総会及び講演会には会場である琉球大学の大学会館があふれてしまうという嬉しい悲鳴もありました。本会設立以降の関連分野の発展はめざましく、また社会の関心も強くなるばかりである。特に、会員の多い沖縄県においては県内の最近の資源有効利用の促進のプロジェクトには殆んど本会の会員が重要な役割を果しております。本会々員による県の行政へのサジェスション、企業・団体へのアピールとその企業内での活動、また大学・試験場の研究者の連携などによって進められた事業は数多くあります。何も沖縄県だけではありません。国内でも本会の会員の資源利用に関する研究は注目されています。国家プロジェクトの研究の中でさえも重要な成果を上げています。例えば、科学技術庁の研究調整費で進められた熱帯植物資源の開発研究では、大部分本会の会員で構成しているグループが最も充実した報告書を作成しております。これから我が国が東南アジア諸国と手を組んで行くためには資源の有効利用に関する技術の

開発は益々重要になって参ります。それと共に本会が持つ役割も重要になって来ることと思
います。

御承知のように、これまで本会には会員の連絡のためのニュースレターしかありませんで
した。このニュースレターは若い幹事達が大変苦勞して会や会員の動きを皆様に伝えるため
に定期的に作ってくれておりますが、さらに、研究会としては研究発表の場である会誌を作
らなければならないというのは設立のときからの悲願でありました。幸いようやく昨年度か
ら編集委員会を設置し研究会誌の創刊号を出すまでに会が充実して参りました。研究会誌は
単に会員の間で研究を知らせるものでなく、広く世間に公表するものであります。研究会の
顔にもなるものであります。第1号はまずは本会に応わしい総説を揃えましたが、いずれも
一流の方々によるもので世界中どこにでも出せるものです。これを手始めに本会誌も世の中
に広く知られて行くと思存しますので、次号からは是非会員の皆様のオリジナルペーパーをお
寄せいただきたく願います。その結果として本会誌が、熱帯・亜熱帯の資源について研
究する人々にとって必ず目を通さねばならないようなジャーナルに育てて行きたいものです。